



NO. 811  
 発行  
 2014年  
 3月20日  
 国鉄労働組合  
 新潟地方本部  
 発行責任者  
 上石 昌彦  
 編集責任者  
 教 宣 部

# 春闘勝利と組織拡大へ

第120回拡大地方委員会が2月22日地本事務所で開催し春闘の取り組みなど当面する課題について意思統一を図りました。

福富組織部長の開会あいさつで始まり、地方委員7名中全員の出席を確認、委員会が成立しました。委員、傍聴者を含め全体で13名の発言がありました。春闘の取り組みや職場の問題点、特に委託化された職場では偽装請負が頻繁に発生していることなど多くの発言がありました。



## 議長に 今井委員を選出

議長に新潟県支部の今井委員を選出しました。執行委員長あいさつでは、上石委員長が風邪で欠席したため、藤井副委員長からあいさつがありました。



## 全体の意見

●地域春闘共闘に国労も入って共有する課題について闘っていくことを意思統一した。脱原発の運動や集会について支部として取り組んでいく。

●新潟駅の立体交差の工事にともなつて新幹線の高架下の駐車場が無くなる。乗務員は早朝出勤があるので、大きな問題として受け止めている。現場では他労組と共闘して1台でも駐車できるよう運動

第120回拡大地方委員会  
2月22日開く

を進めていく。要求の多数派から集まれるところから運動を活性化していきたい。分会組合員が主任試験に合格した。国労も合格することに敬意を表したい。



まだにある。地域への影響も大きい。この間100名が減っている。これは社会的な影響がある。大きな問題だ。車両製作所分会は3名集まる機会、活動が出来ていない。元気が出る、目に見える活動を提起していく。3月10日地本春闘総決起集会は新潟車両製作所の問題で、チラシ配布、宣伝行動やデモを実施し地区労や地域の労働組合などへも訴えて闘っていく。支部としても共催として取り組んでいく。多くの組合員が結集する春闘総決起集会にしていこう。

●JR貨物は昨年、賃金抑制について現場長を集め指示、新採者へも賃金抑制についての書面を郵送した。会社と貨物労との話し合いがされ了解されていた。国労は会社の賃金抑制について声明を出し会社を追及した。貨物労はそのことで反対を表明した。怒りがあるがあきらめもある。

立憲主義と9条を守る  
 県民の集い  
 3月29日(土)  
 13時15分～  
 新潟県民会館



●小林さんが、55歳で退職した。送別・激励会を開催、他労組も出席した。職場での活動は、ひとりひとりの積み重ねが大切だ。新潟車両製作所について、部分ではなく丸ごと外注となり全員が外向となる。JRの意外なやり方だ。ピラ配布行動など職場で展開。東労組も詐欺にあつたようなものだと感じている。片道出向の危機感がい

●国労貨物協の取り組みは、職場での全員集会の開催、現場長への申し入れ・支店への要請行動・ハガキ、FAX行動・労働条件改善の署名の実施・JR社宅へのチラシ配布。3月7日貨物中央行動が行われる。3月10日の春闘総決起集会では新潟車両製作所と貨物問題を含め宣伝行動の実施を要請する。



●現場では委託について業務の発注の指示は駄目だが情報なら良いという判断になっている。他の職場の現状はどうか。

●職場で感じていること、平成採の社員に変わりつつある。23人中、国鉄採用は5人になった。技術力に差が出ている。当日の作業メンバーによって大変な状況になる。安全問題や教育について会社のやり方は厳しい現状だ。職場の作業ルールがわかっていない。OJT教育など聞いているが理解していない。

●北陸新幹線開業に伴って、ときめき鉄道の車庫を作っている。E7系の試運転が今月中に実施。脇野田駅を作っている。直江津駅を廃止。現在、個別面談が実施されている。六日町駅で到着の列車のドアが反対側が開いた。安全について心配だ。

●検修関係は社員の年齢が高い。EL交換・DCの仕業、リゾット車両など少人数で対応している。技術力が低下している。将来が不安だ。新



しい仕事は受け入れられるが丸投げ状態だ。機動班のメンバーは転動してきただばかりなので業務上負担が大きい。



●外注化について、新津車両製作所の分社化問題がわからなかった。JR東日本・貨物について外注化が進んでいる。今後、どうなっていくのか。国労として闘い、取り組みを明確化すること。集会だけでなくデモも含めた企画・取り組みにすること。

## 藤井副委員長 あいさつ

上石委員長が、肺炎で入院しているため、藤井副委員長があいさつを行いました。



第184回拡大中央委員会が1月25日に開催され14名の委員から発言がありました。多くの委員から今春闘はストライキを配置して闘おうと発言がありました。ベア0が続く中、昨年、貨物会社では夏、年末手当が超低額回答が出され、社員、家族は厳しい生活実態です。

さらに、4月から消費税が8%になり生活環境はさらに悪化していきます。国労本部は要求額を1万円としました。要求獲得と労働条件改善に向けて、ストライキをいつでも打てる体制を全組合員で意思統一をお願いします。

組織強化拡大は、国労本部闘争指令が出され全国各地で拡大行動が展開されています。新潟においても、昨年関連会社の労働者が国労加入しました。さらに拡大の取り組みを進めていくために、新潟地本でも、組織対策委員会を設置し組対会議を開催、3月15日に第2回組対会議を開催し具体的な行動を展開していきます。

さまざまな課題が山積する中で、全組合員が意思統一し総団結で闘いを進めすべての活動、行動を組織拡大に結びつけていきましょう。拡大地方委員会で多くの方々からの発言をお願いしあいさつとします。

●北陸新幹線開業で貨物列車は大きく変わってくる。直江津の休養管理室を使用できるのか。直江津は「ときめき鉄道」へ移管される。ときめき鉄道開業以降、直江津乗務員基地の将来について変わりは無いと回答しているが、どうなるのか。乗務員通路の除雪は、JR東日本がやると改善、会社が変わるとどうなるのか。

●偽装は委託後、繰り返される。委託会社の偽装について改善を早急に申し入れを。指揮命令系統についても同様だ。

新潟駅立体交差の工事終了まで鉄道整備の業務が忙しい。鉄整の書記長はダイヤ改正についての交渉はしないと表明している。他の会社の状況も把握してJRへ申し入れをしていく。

高崎・東京管内の除雪関係の制度ルールなど他社と違う。作業が他社

またがりについて業務が拡大している。作業ルール確認など調査、ルールにのっとりやることが。雪の影響で運転見合わせなど、会社側に申し入れを行うこと。冬季体制について申し入れること。



●出向について、検修関係では3年が限度だ。3年の年数が体力的にどうなのか。出向後に代替え要員が出されるかどうか。調査していくことが重要だ。仕業検査が外注、構内入換業務が外注化され出向となつていく。今後、その代わりがいくのか。出向先々NTS社員の契約内容が何種類もある。同一の業務でいろいろな身分・雇用形態がある。労働条件の改善をしていこう。

## 編集後記

今回は拡大地方委員会の特集になりました。発言内容は、職場の現状や問題点、職場は委託化が進み偽装が頻繁に発生していることなど多くありました。

春闘行動や組織拡大など職場の要求前進に向けて、ひとりひとりの力を結集して頑張っていきたいと思います。

そして身体に気をつけてください。健康第一です。

